

第71回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、平成26年度JSPS科研費 26284010助成「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」（基盤研究（B））「出土資料と漢字文化研究会」との共催です

- ・ **中国出土文献研究の最新動向**
— 「辨疑」を中心に —
- ・ **北京大学蔵秦簡牘研究の新展開**

発表者：朱鳳瀚教授（北京大学出土文献研究所）

陳侃理研究員（北京大学古代史研究中心）

科研「出土資料と漢字文化研究会」のメンバーが、北京大学出土文献研究所を昨年8月に訪問しました。その際、同所長の朱鳳瀚教授をはじめとする研究者との学術交流をはかるべく来日を要請し、今回の研究会において研究発表をお願い致しました。

さて、「辨疑」は出土した文献の信憑性をはかり、確かな資料として読解するために必要な学術です。具体的には、竹簡の来歴・材質・契口の有無・字体・書風・内容の諸方面を包括して検討するものです。因みに、朱教授によれば最近中国では新たな視点で書風から「辨疑」を論じる学者が現れたもののまだ少数だそうです。よって、この「辨疑」を端緒として今後の出土文献の研究動向を注視する必要があります。

次に、北京大学が所蔵する秦時代の簡牘には、整理者によれば、当時の統治機構や暦法さらに数学や方術などが記されているそうです。これは、秦時代の文字や文献について研究する上での貴重な資料と申せましょう。

第71回目を迎えた今回の研究会は、朱鳳瀚教授（北京大学出土文献研究所）が「辨疑」を中心に中国における出土文献の研究動向について、陳侃理研究員（北京大学古代史研究中心）が北京大学所蔵の秦時代の簡牘について、最新の情報を盛り込んだ研究発表をいたします。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日時：2015年3月13日（金）午後2時～午後5時

場所：日本女子大学百年館低層棟1階101教室

- 使用言語 中国語（日本語による通訳あり）
- 参加費 無料

連絡先：東京都練馬区中村南1-12-5

東京大学名誉教授 山東大学教授

池田知久 電話：03-3926-8568